

東京都

- 1 東京都の観光施策
- 2 通訳案内士の登録状況
- 3 通訳案内士活用の現状
- 4 現状認識
- 5 課題

平成27年3月6日

東京都産業労働局観光部

1 東京都の観光施策

東京都長期ビジョンの策定(平成26年12月)

◎目標:訪都外国人旅行者数を2020年までに年1,500万人、2024年までに年1,800万人に

外国人旅行者の受入環境整備方針の策定(平成26年12月)

～世界一のおもてなし都市・東京の実現に向けて～

◎基本的な考え方

東京を訪れる外国人旅行者が安心かつ快適に観光を楽しめるよう、2020年大会までに旅行者の移動・滞在を支える基盤を、ソフト・ハード両面から都内全域で計画的かつ集中的に整備していくため、東京が一体となって取り組むべき方向性を示す。

◎五つの視点

- ①多言語対応の改善・強化
- ②情報通信技術の活用
- ③国際観光都市としての標準的なサービスの導入
- ④多様な文化や習慣に配慮した対応
- ⑤安全・安心の確保

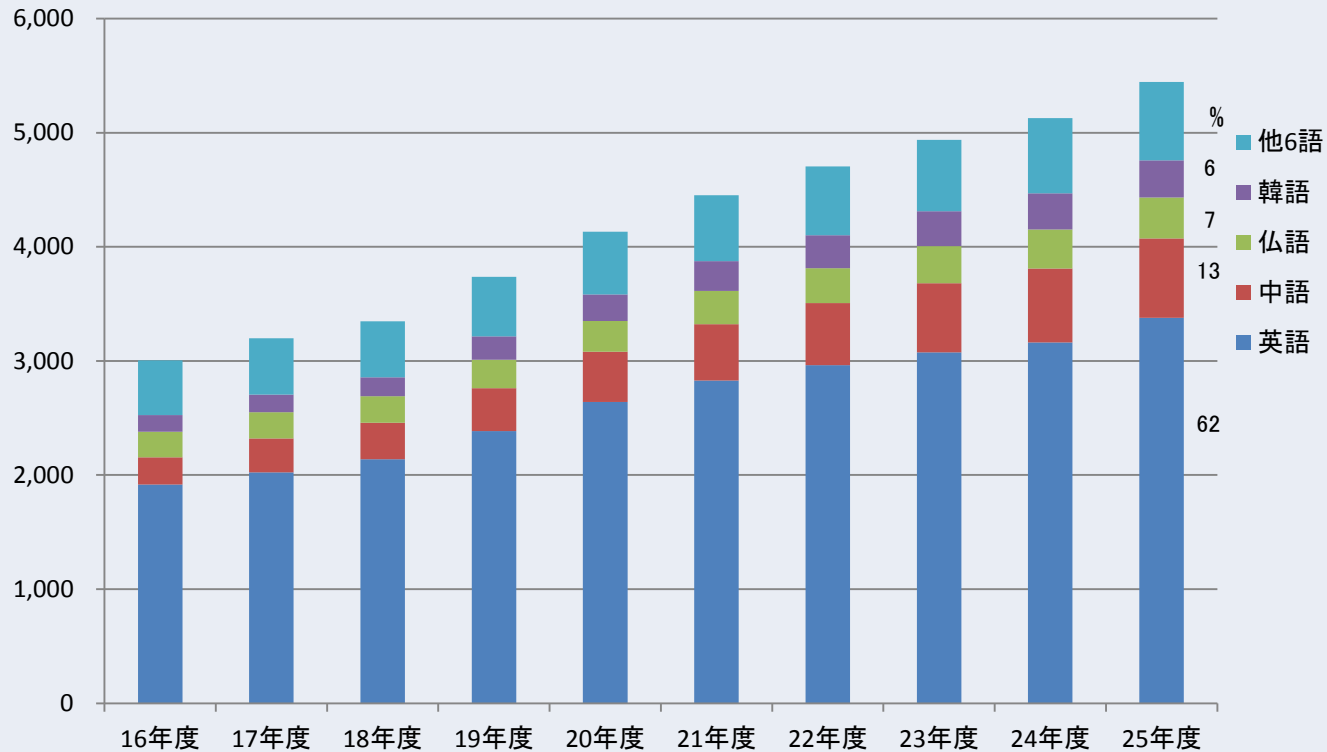
◎主な取組例

- ひとりでまち歩きを楽しめる観光案内機能の充実
- 多言語による案内サインの充実
 - ・「案内サイン標準化指針」の改定
 - ・観光案内標識の設置・更新
- 観光ボランティアの育成と街なかでの観光案内の展開
 - ・区市町村等と連携した観光ボランティアの裾野の拡大
 - ・「おもてなし親善大使」の育成

2 通訳案内士の登録状況

○通訳案内士登録者数:5,446人(平成26年3月末現在)

○登録者数の推移



3 通訳案内士活用の現状

(1) 都立施設における料金の減免

複数の施設で通訳案内士登録証提示による 利用料・観覧料等の免除を実施

【 参考例 】

公園

- 浜離宮恩賜庭園、旧芝離宮恩賜庭園、小石川後樂園など9カ所の文化財庭園
(※通訳及び観光案内を目的として、外国人旅行者に同行する場合)

博物館 美術館

- 江戸東京博物館 【常設展】
(※外国人のお客様を案内する場合)
- 東京都庭園美術館
(※下見利用も可)

3 通訳案内士活用の現状

(2) 都の事業における活用

都の実施する各種事業において 通訳案内士を活用

【参考例】

観光資源の 開発

- 地域資源発掘型実証プログラム
(外国人向けの文化体験ツアーやまち歩きツアー)
- ロケ地ツアー
(国際映画祭ゲストを対象としたロケ地をめぐるツアー)

観光プロモーション

- メディア招聘・エージェント招聘
(海外のメディア、旅行エージェント等を対象とする視察ツアー)

MICE誘致

- ミーティングプランナー等による視察
- 大規模国際会議参加者向けの観光ツアー

4 現状認識

団体旅行

個人旅行

こだわりの旅

特定の
興味・関心

体験

地域の人との
ふれあい

高度な専門性を発揮

ボランティア

通訳案内士

地域限定通訳案内士

特例ガイド

多言語対応



5 課題

○多様な旅行者ニーズに対応できる仕組

- ・タクシー業界では外国語対応可能な認定ドライバー育成の動き

○専門性と旅行者ニーズとのマッチング

(通訳案内士団体・旅行事業者)

○登録更新制度によるガイドの質の確保

○少数言語の旅行者に対応できる仕組